

2009年4月

息子の 結婚式

「要介護5で認知症もある父親を、弟の結婚式に参加させたい。ただ、身内の結婚式だけに、お客様を迎えなくてはならず、そばにいて世話ができない。」そう電話してきてくださったDさんの娘さん。特急を使っても4時間以上かかる遠方のお客様で、お受けできるかどうか、私たちも少し悩んだが、「どうしても連れて行ってあげたい」、「認知症になる前はずっと息子の結婚のことを気にしていたので、どうしても参加させたい」という熱い想いに心を打たれ、受けさせていただくことに。

一旦引き受けた以上、安全面など妥協をしないのが私たちのポリシー。事前にDさんの元まで足を運び、ケアマネジャーさんや担当のヘルパーさんからお話をお伺いし、その場でお客様の介護のお手伝いもさせていただいた。また、結婚式会場まで足を運び、現場状況を把握すると同時にプランナーの方と相談。喉に障害があり硬いものが食べられないので、軟らかい食べ物に変更、更には移動の事も考えて席の配置にも配慮していただいた。

当日、施設から出発するDさん。介護タクシーに乗り結婚式会場に向かう中、今なぜ自分が移動しているのかがおわかりにならない様子。認知症の関係で、ご自身の奥様と娘さん以外は認識できなくなっていたからだ。会場に着いても、多くのご親戚が「久しぶり！元気だった？」と声をかけてくださるのだが、覚えていないせいか全く言葉を返さない。時々パ



ニックが起きて、大きな声を出されていた。

そんな状態で臨んだ結婚式。

腕時計の針の音が聞こえてきそうな静かなチャペル。新郎と新婦が神父の前で永遠の愛を誓っていた。

唾を飲み込むにも音が響きそうな雰囲気。誓いのキスが始まろうとするその瞬間、

「おめでとう！」

「ありがとう！」

静寂の中で大きく響くDさんの声に、降り注ぐ周囲の驚きの目。エスコートヘルパーの私も、そっとDさんの肩を抱き、「大丈夫ですか？」と声をかけようと顔を覗き込んだ。すると、Dさんの目からは大粒の涙が。ずっとわかっていたのだ。そして、この場に、この瞬間に感動していたのだ。私自身も感動で胸がいっぱいになった。

お客様の声

～お客様よりお手紙をいただきました～

この度は弟の結婚式に際しお世話になりました。ありがとうございました。
おかげ様で、家族揃って祝う事ができました事、本当に感謝しております。
父も弟の晴れ姿を「かっこいい」に焼きたてのケーキで喜ぶ事かできましたと思います。

父不在で、とり行けるければいけないが、
「旅は最高のリハビリ」という言葉に
体合、た事になり、父が存在する最高の
結婚式になりました。

これから素晴らしい活動で手助けが必要
な方々に応援にあげたい。

書面ではとても伝えきれない感謝の思いが
いっぱいですが、まずは急ぎ御礼です。

担当者コメント

認知症だからわからないのではないんだ。そう感じると同時に、遠くまで来てよかったと思えたエスコートでした。



介護度 要介護5

年齢 79歳

行先 石川県金沢市

同行 エスコートヘルパー1名



時間

行程

9:30	エスコートヘルパーが施設に到着
10:00	施設を出発
	結婚式会場に到着
11:00	ロビーで写真撮影
	結婚式リハーサル
12:00	結婚式
13:00	ご披露宴
15:45	結婚式場を出発
16:30	施設に到着